

4月14日／グループワーク

IBMのリバーサイド読売ビル（箱崎事業所の近所）で9時45分から行われました。

適性検査と同じように受付時刻になるまで、当然のように受付は開始されません。

試験会場は1階玄関入ってすぐの所になるので、屋外で行列を作って待機です。

時間になって受付が開始されると、学生証を確認され、どの班になるか指示を受けます。

2部屋に分けられ、1部屋8班、各班4人です。

グループワークは班ごとに行われますが、面接官は2班ごとに2人が配置されます。

まずグループワークに入る前に2班ごとに、面接官と学生との間で自己紹介が行われます。

1人1分程度と言われたのですが、何も考えてなかったのが30秒くらいで簡単に終わらせました。

しかし他の人の自己紹介を聞いてるとみんなすごいです。きっちり自己分析してます。

自分が一番内容的に薄かったのではないと思うくらいです。

更に東大や早慶は当然のように、有名大学が揃ってます。さすが大企業です。

しかも私の隣にいた女子、東大経済学部を主席卒業とか言ってます。ありえないです。

さてグループワークの内容ですが、要約すると次のようになります。「重要な顧客に対して、バス停から歯医者への道順を地図に書いて示す。」

一見簡単そうに見えますが、地図を作るための情報が細切れにされているので難しいです。

つまり「川の上流に線路」や「学校の北300mに神社」といったように情報が分割されていて、

それらの情報が書かれた約30枚のカードを班員それぞれが持っているわけですが、

班員は互いのカードの内容を見せ合ったり、読み上げたりしては駄目で、

互いのコミュニケーションのみによって情報を伝え合わなければならぬので更に難しい。

コミュニケーション力と情報解析力を問う非常に良い問題だと思います。

さて、早速地図作成開始です。

こういう解析的な仕事は好きだし、自分で手を動かすのが一番なので、リーダー的に地図作成をしました。

文字情報だとイメージがつかみにくいので、実際に地図に書き込んでいくという作戦です。

情報同士を結合させて、地図を作成・結合していくわけです。

所詮情報を集めていだけだから簡単だと思ったら、意外とそうは

いきません。

いくつも難問が出てきます。恐らくはこの難問のクリア能力も試されています。

まず、歯医者と指示されているのに、「病院」と「医院」の二つが出てきます。

どちらが歯医者なのか、どちらとも同じ建物を指すのかどうかさえわかりません。

班の結論として、普通の病院に歯科は無いが、歯医者は医院とも言うので医院を目的地にしました。

他にも迷う点はいくつかあったのですが、最大の難問は、情報を全て組み合わせると、どう考えても矛盾点が出てくるといことです。

AはBの北にあるはずなのに、他の情報ではBの方が北に位置しているといったものです。

とりあえず、情報を何度か確認しましたが、その結果は変わりません。

ということは嘘の情報が混じっているか、交差点や小学校などの目印が2つあるということです。

そこまで突き止めて試行錯誤してみたのですが、突破口が見えてきません。

結局制限時間1分前になっても解決しなかったのが、諦めて暫定的な地図で清書をしました。

その後、2班が互いに結果を発表し合います。

地図を清書したということで、我々の班は私が発表しましたが、地図作成までしか手が回らなかったのが、読み原稿など考える暇もなくアドリブです。

さて、模範解答が発表されました。

正解は、目的地はやはり病院ではなく医院で、スーパーが2件あるということでした。

しかも口頭で発表するときに、伝える相手が「重要な顧客」であることから、全て敬語を用いて、道に迷ったときのため、自分の携帯番号を伝えアフターフォロー体制もしておくことも重要でした。

普通の企業ならそこで終わりかと思うのですが、更にグループワークは続きます。

この正解を受けて、なぜ自分たちが正解になぜたどり着けなかったか&

辿り着くにはどうすればよいかを班内で数分話し合っ、3点に要約して発表せよということです。

我々の班が出した点は、以下の3点です。

- ・時間配分が悪く直前に清書をするようになった
- ・固定観念にとらわれてスーパーが2つという発想が出なかった
- ・口頭発表時に顧客を想う心がなかった

また自分が発表するのも面白くないので、今回は他に発表したような人にさせました。

最後に面接官二人から、フィードバックコメントをもらいます。

我々の班へのコメントは辛口でした。

情報カードとメモ用紙の他に、付箋やマジックなども配布されていたのに、

そういったものを使わずにいきなり紙に地図を書き始めるのはどうかという意見でした。

なんだかリーダー的に意見を主導していった自分に対して責められるようで辛かったです。

たしかに付箋を使ったほうが便利でしたね。

でも使っても大幅な進展があったかといえば、決してそんなことはなかったと思うと自己弁護。

以上でグループワークは終わりです。

2時間弱の選考でしたが、なかなか面白いテーマだったと思います。

G D

今回は日本 IBM の本社でグループディスカッションです。かなり広い部屋に案内され、各テーブルに座らされました。会場には 100 人ぐらいの受験生が入っており、各テーブルに 7 人ずつぐらいの配置でした。とりあえず開始まで暇だったので相手のレベルを知る意味で出身大学を聞きました。大体みんなマーチ、早慶ぐらいだったので他社とレベルではかわらないのかなと若干安心しました。

さて、いよいよ本題です。今回のディスカッションの内容は「お客様に道案内をする」という内容でした。まず初めに各受験生には 7 枚ずつぐらいのカードが割り振られます。各カードには建物や駅などの断片的な情報が書かれており、その情報をまとめて一つの地図を作成し、お客様を目的地まで道案内をするというものでした。これがやってみると意外と難しい。例えば「コンビニの東に 200m 進むと交差点がある」「国際ホールから西に 100m 進むとコンビニがある」という 2 つのカードがあるのですが、このコンビニが実はそれぞれ別のコンビニを指していたりと、いくつかのトラップ要素が埋め込まれているわけです。

とりあえず G D においては議論における結論の有効性ではなく、あくまで「議論にどう取り組んでいるか」を見られていると認識していたため、私が進行役とタイムマネジメントをしながら進め、なんとかまとめたわけです。結果はおしいようなおしくないような微妙な地図ができました。フィードバックをしていただいた社員の方にも「これじゃあ道案内できないね・・・」と苦笑いしながら言われ、こちらも「ははは・・・」と苦笑い・・・非常にドンマイな結果だった。ただ、個人的には議論に積極的に取り組めたし、議論のフレームワークを支えられたため満足でした。

そして後日、無事 G D の合格メールが来ました。

あなたが IBM を志望する理由は何ですか。IBM のビジネス内容に触れ、具体的に記述してください。500 文字以内

御社を志望する理由は、御社が世界で最も優れた IT 技術者の集団であり、かつそれを維持し続けている点にあります。また、社会において必要とされるサービスを、その高い技術力で実現化し続けている点も魅力の一つです。私はその技術集団の一人として実際の社会を IT の力で支える仕事をしたいです。具体的には、IT スペシャリストとして、御社のエンタープライズ向けの支援システムをはじめ、企業経営の変革における「e-business」によるトータル・ソリューションの設計・開発に貢献したいと思います。このような技術・貢献における高水準の維持には、「世界に価値あるイノベーション」が不可欠だと思いますが、私はそれを先月米国大使館が主催した「起業家セミナー & ビジネスプラン・コンペティション」に参加し、肌で実感しました。ライバルチームのビジネスプランが、アイデアはシンプルでしたがとてもイノベーション性の高いプランであり、結果的に優秀イノベーション賞を受賞したことに強い印象を受けました。御社のイノベーションと信頼度に対する私なりの評価は、自分のこだわりと方向性が重なることを基に志望しました。

あなたは IBM でどのような IT スペシャリストになりたいと考えますか？ご自身の夢や目標を交えて、具体的に記述してください。500 文字以内

私の夢は御社において、IT スペシャリストとして、特にエンタープライズ向けの経営変革を支援するシステムに特化したサービスの構築と運用に貢献することです。これは、大学の三年生のとき、自分で小規模のネットショッピング仲介サービスを立ち上げ、運営を始めた体験が基礎となっています。サービスの内容をはじめ、トランザクション処理の構成や物流の把握など、大まかにではありますが、実地で学ぶ体験は強烈でした。自分にとって一番重要だったのは、「顧客との長きに渡る関わり」、つまりソリューションの提供にとどまらず、アフターサービスまで含めた運用こそが、業務として非常に大切だということ、強く意識できたことです。また、サービスの運営にあたっては、顧客に対して常に新しいサービスを提供し続けなければ注文が来ないという事実が学べたことも、私にとって貴重な体験でした。新たな顧客価値とそれを産み出すイノベーションをリードするという御社の長所に強く共感したのはそのためです。私はこのような初心を大切にする IT スペシャリストとして、社会を支える「IBMers」の一員に加わりたいと思っています。

あなたが様々な人と共に何かに挑戦したことによって経験した困難や挫折について、どのように乗り越え、何を学んだかを教えてください。500 文字以内

私にはチームワークに関しては、忘れられない思い出があります。それは昨年度に出場した、全日本自律移動ロボット大会「つくばチャレンジ2011」です。一番強烈な記憶は、大会直前の一日のことです。それは本走行前の最終段階、ロボットの微調整の際の出来事でした。その時、ロボットを操縦するオペレータと私の二人のミスが重なり、ロボットの速度のコントロールが失われ、ロボットが暴走し、前車輪と駆動モータ部分が壊れてしまいました。このままでは一切の走行ができない状態でした。そうなれば当然、大会への参加も無理となり、完走を目指すという3年越しのみんなの苦心が水の泡になります。私の頭は挫折感で一杯でした。しかし先輩のチーム・リーダーが冷静な判断をし、最終調整をとりやめ急遽大学にとって返し、ロボットを修理することにしました。幸い修理は成功し、ぶっつけ本番ではありましたが本走行に挑戦、奇跡的に完走できました。この経験から、致命的なラブルに直面しても冷静に考えること、かつチームが一丸となって目標達成への熱意を維持し、いかなる状況においてもベストを尽くすことがいかに大切かということを学びました。